

フィールドスター[®]P乳剤

農林水産省登録 第22777号



日本曹達株式会社農業化学品事業部普及部

1. はじめに

従来のフィールドスター乳剤の有効成分であるジメテナミドは光学異性体であるR体とS体を等量含んでいましたが、除草効果を示すのは主にS体（＝ジメテナミドP）の方です。

フィールドスターP乳剤は、この除草活性成分の主体であるジメテナミドPのみを成分として含んでおり、より少ない成分量で従来品と同等の除草効果を発揮し、環境に与える負荷を軽減した製品として、ドイツBASF社が開発した酸アミド系の野菜・とうもろこし用の畑作用土壌処理型除草剤です。

本剤は、ノビエ、メヒシバなどの一年生イネ科雑草をはじめ、カヤツリグサ、ヒユ類、スベリヒユなどの広葉雑草に対しても優れた除草効果を示します。また土壌中で安定した処理層を形成するため、これらの雑草の発生を長期にわたり抑えます。公益財団法人日本植物調節剤研究協会を通じて委託試験を行い有用性が確認されて、2010年8月10日付けで農薬登録されました。

2. フィールドスターP乳剤の特長

フィールドスターP乳剤は、酸アミド系のジメテナミドPを有効成分とする野菜・とうもろこし用の畑作用土壌処理型除草剤です。

1) イネ科雑草に優れた効果

ノビエ、メヒシバ、オヒシバ、スズメノカタビラなどの一年生イネ科雑草に高い除草効果を示します。

2) カヤツリグサや一部広葉雑草に高い活性

カヤツリグサ、スベリヒユ、ヒユ類に高い活性を示します。

3) 長い残効性

一年生イネ科雑草に対し40日以上残効を示します。

3. 有効成分

一般名：ジメテナミドP

化学名：(S)-2クロロ-N-(2,4-ジメチル-3-チエニル)-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)アセトアミド

4. 製品概要

農林水産省登録：第22777号

商 品 名：フィールドスターP乳剤

種 類 名：ジメテナミドP乳剤

有効成分含有率：ジメテナミドP 64.0%

製剤の物理化学的性状：暗褐色可乳化油状液体

有 効 年 限：3年

包 装 規 格：500ml×20本

5. 安全性（製剤）

1) 人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

急性経口毒性 LD₅₀（ラット）：500～2,000mg/kg

急性経皮毒性 LD₅₀（ラット）：>5,000mg/kg

皮膚刺激性 ウサギ：刺激性あり

眼刺激性 ウサギ：刺激性あり

2) 環境毒性

コイ LC₅₀（96hr）：12.0mg/L

オオミジンコ EC₅₀（48hr）：8.85mg/L

緑藻 EbC₅₀（0-72hr）：0.128mg/L

6. 特性

1) 殺草スペクトラム

フィールドスターP乳剤の殺草スペクトラムを表1に示します。本剤は畑地に生えるノビエ、メヒシバ、スズメノカタビラなどの一年生イネ科雑草をはじめ、カヤツリグサ、ヒユ類、スベリヒユなどの一年生雑草に対して、発芽前処理で優れた除草効果を示します。また、問題雑草になってきているツユクサにも効果があります。

シロザ、タデ類などの一部広葉雑草には効果が劣りますので、これらの広葉雑草が多発する圃場ではこれらに有効な除草剤との組み合わせで使用してください。

2) 作用性

ジメテナミドPは酸アミド系の非ホルモン・吸収移行型の除草剤で、雑草の幼芽部および幼根部より吸収され、雑草の超長鎖脂肪酸の合成を阻害することにより雑草を枯死させます。

イネ科雑草の2葉期まで効果を示しますが、効果を安定させるために雑草発生前に時期を失しないように散布してください。

表1. フィールドスターP 乳剤の殺草スペクトラム

分 類	種 名	効果
一年生イネ科雑草	ノビエ	◎
	メヒシバ	◎
	オヒシバ	◎
	エノコログサ	◎
	スズメノテッポウ	◎
	スズメノカタビラ	◎
一年生広葉雑草	タデ類	○～△
	ハコベ	○～△
	スベリヒユ	◎
	ノボロギク	○
	ハキダメギク	◎～○
	タカサブロウ	○～△
	ナズナ	○～△
	スカンタゴボウ	△
	オオイヌノフグリ	◎～○
	シロザ	△～×
	イヌビユ	◎
	ツユクサ	○
	イチビ	△～×
一年生カヤツリグサ科雑草	カヤツリグサ	◎

効果：◎ 極大(100～90%)、○ 大(89～80%)、
△ 小(79～60%)、× 無(59%以下)

7. 適用作物・雑草名及び使用方法

※適用地帯 全域のみを抜粋

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当たり 使用量		本剤及びジメ テナミドP及びジメ テナミドを含む 農薬の総使用 回数	適用地帯	使用方法
				薬量 (mL)	希釈水量 (L)			
キャベツ	一年生雑草 (アカザ科・ アブラナ科・ タデ科を除く)	定植後 (雑草発生前) 但し、定植後 10日まで	砂土を 除く 全土壌	50～75	100	1回	全域	全面土壌 散布
えだまめ だいず		は種後発芽前 (雑草発生前)		75～120	70～150			
たまねぎ		定植後(雑草発 生前) 但し、定 植後30日まで			100			
とうもろこし 飼料用 とうもろこし		は種後発芽前 (雑草発生前)			70～150			

8. 上手な使い方

フィールドスターP乳剤を効果的にかつ安全にご使用いただくため、下記の点に留意してください。

散布時期：雑草発生前の散布

雑草の発芽後では効力が劣るので、雑草発生前に処理してください。

覆土深：覆土深は2～3cm

砕土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はていねいに行ってください。

適用土壌：砂土はさけてください。

本剤は土壌中の移行性が比較的大きいので、砂土での使用はさけてください。

処理薬量：薬量は必ず守ってください。

ラベルをよく読み、処理薬量を守ってお使いください。砂質がかった土壌や礫が多い圃場では登録薬量の低い薬量で使用してください。

均一散布：希釈水量を守り（70～150ℓ／10a）

均一に散布してください。

重複散布は薬害を生じるおそれがあるので、注意して散布してください。

天候に注意：散布直後の大雨

散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見極めてから散布してください。

また、キャベツ等夏季定植を行う場合は、更に下記の点についてご注意ください。

- 乳剤なので、気温が高く直射日光が強い時間帯での散布はさけてください。
- 散布後1日以内に大雨が予想される場合は、散布をさけてください。
- 定植後は活着（地上部のしおれが回復）してから、薬剤を散布してください。
- 畝立て耕耘・灌水後は雑草が発芽してくるので、畝立作業後は速やかに、定植作業をしてください。

9. (公財) 日本植物調節剤研究協会委託試験成績（抜粋） 図1～5

図1 キャベツ

鳥取県園芸試験場	
平成12年度	
品種	YR嶺峨緑2号
播種	7月17日
定植	8月11日
処理	8月14日（+3、雑草発生前）
調査	9月8日（処理25日後）

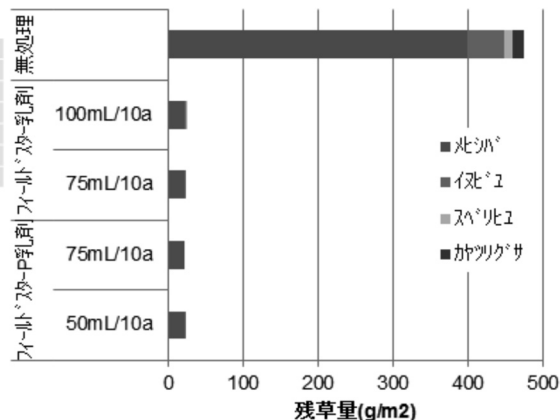


図2 だいず

佐賀県農業試験研究センター	
平成11年度	
品種	むらゆたか
播種	7月21日
処理	7月22日（+1、雑草発生前）
調査	9月3日（処理43日後）

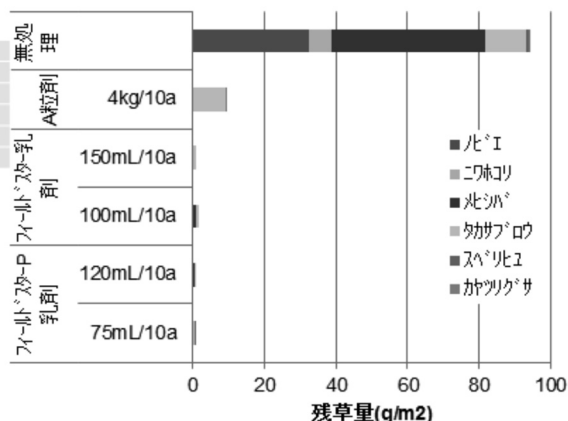


図3 飼料用とうもろこし

愛媛県畜産試験場
平成12年度
品種 ゴールデンバートDK789
播種 5月8日
処理 5月9日(＋1、雑草発生前)
調査 6月6日(処理28日後)

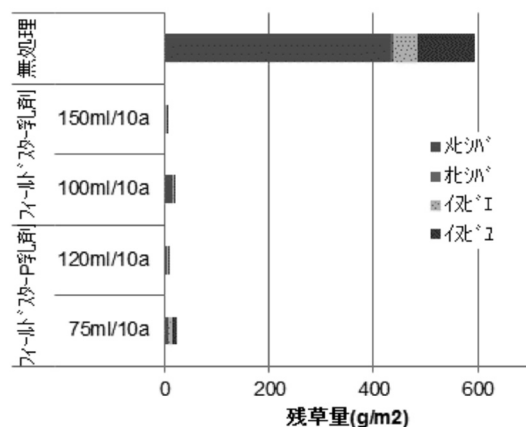


図4 とうもろこし

鹿児島農試大隅市場
平成12年度
品種 赤毛のアン
播種 4月18日
処理 4月18日(＋0、雑草発生前)
調査 5月17日(処理29日後)

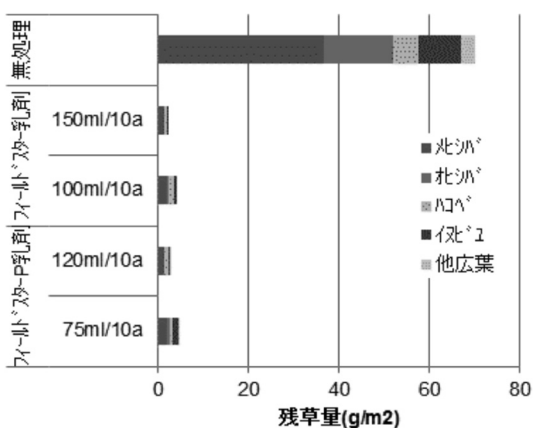
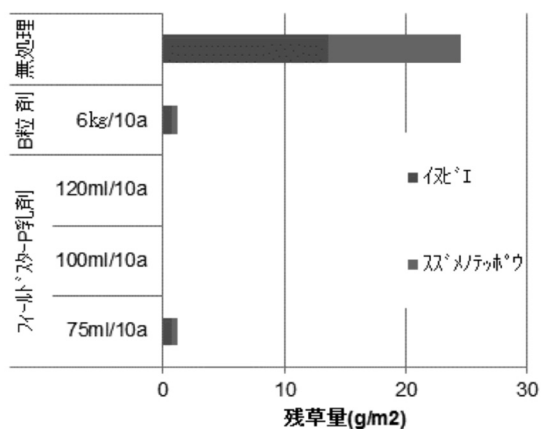


図5 たまねぎ

佐賀農業試験研究センター
白石分場
平成19年度
品種 もみじ3号
播種 10月1日
定植 12月6日
12月14日
処理 (8日後、雑草発生前)
調査 3月26日(処理103日後)



10. おわりに

フィールドスターP乳剤は、10aあたりの使用薬量も従来品のフィールドスター乳剤と異なりますので、ご使用に際してはラベルをよく読んでお使いください。

販売は、フィールドスター乳剤同様、北海道地域

は、BASFジャパン(株)が担当、それ以外の都府県は日本曹達(株)が担当します。

今後、更に野菜分野を中心に適用作物の拡大を検討中です。

今後も本剤の使用に関しまして、ご指導受け賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。